外国人教員官舎跡に案内板とモニュメントの設置を

宮澤・レーン事件を考えるつどい

2022年12月11日(日) 14：00～

（開場 13：30）
16：00 終了予定

北海道大学学術交流会館

1階小講堂

（札幌市北区北8条西5丁目）

1941年12月8日、日米開戦の朝、北大工学部の学生宮澤弘幸は英語教師レーン夫妻らとともに軍事保護法違反のスパイ容疑で検挙され、投獄されました。宮澤は戦後釈放されましたが獄中で崩した体調が戻らず1年半の後、27歳の若さで亡くなりました。

この事件の背景には、戦争が日々拡大していく中で、北大外国人教員官舎において「心の会」という形で、国籍や人種、立場の違いを越えて、学問の真理を追究し、視野を広げ、固い信頼で結ばれた学生、留学生(中国人など)と外国人教師の営みがあったのです。

今、日本は安保法制、特定秘密法、土地利用制限法などの制定も強行され、憲法改悪の動き、敵基地攻撃能力の保有をめざす大軍拡など戦争ができる国への動きが急ピッチで進もうとしています。

私たちは改めて北大で起きた悲劇の歴史を思い起こし、私たちの今後の運動を考えたいと思います。

一部　講演と報告

講演　「宮澤・レーン事件」の今日的意義

講師　唐渡興宣 氏　北海道大学名誉教授

（宮澤・レーン事件を考える会　代表幹事）

報告　「軍事研究への動員が進む大学の現状」

報告者　山形　定 氏　北海道大学大学院工学研究院教員

二部　「外国人教員官舎跡に案内板とモニュメントの設置を」

北大への要請の回答と今後の活動についての報告と討議

※コロナ感染拡大防止のため参加人数を制限します。（80名）
参加者は必ず事前に下記にご連絡下さい。
連絡先　中原豊司　090-9510-0836　　奥井登代　090-1527-9009

主催：宮澤・レーン事件を考える会　共催：ビー・アンビシャス９条の会・北海道